

2022.11.09

資料3

J R古賀駅東口周辺地区まちづくりガイドライン（案）



国立病院機構
福岡東医療センター

古賀東小学校

古賀中学校

福岡女学院看護学校

古賀寛成館高等学校

JR古賀駅東口周辺地区
整備想定エリア

市役所

JR鹿児島本線

大根川

青柳川

鹿部山公園

国道495号

古賀駅

リーバスプラザが

花鶴川

旧西鉄宮地岳線

西口

古賀西小学校

花鶴川河回

玄界灘

目次

00 はじめに

1. ガイドラインの目的1
2. ガイドラインの対象範囲1

01 上位計画における位置づけ

1. J R 古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画2
2. J R 古賀駅東口周辺地区整備基本計画2

02 まちの特性

1. JR 古賀駅周辺の成り立ち3
2. JR 古賀駅周辺の立地特性3
3. JR 古賀駅東口周辺の現状4

03 まちづくりの整備指針に基づく基本的考え方

1. にぎわいを創出する多様な機能集積 6
2. 公共交通機関との連携と回遊性の高い歩行者ネットワークの創出9
3. 既存工場などの立地特性を活かした街並みの形成10
4. 脱炭素社会の実現に向けたまちづくり11
5. 安全・安心に暮らせる都市基盤の構築12

04 まちの将来像

1. 実現したい風景の基本的な考え方13
2. 実現したいシーン14

05 空間形成の基本方針

- 方針1. ヒューマンスケールな賑わいの連なりをつくる18
- 方針2. オープンスペースの居心地の良さを高める19
- 方針3. 駅とまちをオープンスペースでつなげる20
- 方針4. 古賀らしい個性ある風景をつくる21
- 方針5. まち全体の質を高める22

06 まちのつくり方

1. 道路24
2. 駅前広場25
3. 自由通路デッキ及び生涯学習ゾーン横断橋26
4. 公園28
5. 動線計画29
6. 配棟計画30
7. 舗装31
8. 照明31
9. サイン32
10. 植栽32
11. 色彩33
12. まちづくりのためのルール34

07 実現に向けて

1. 今後の検討事項35
2. 整備の進め方36

00 はじめに

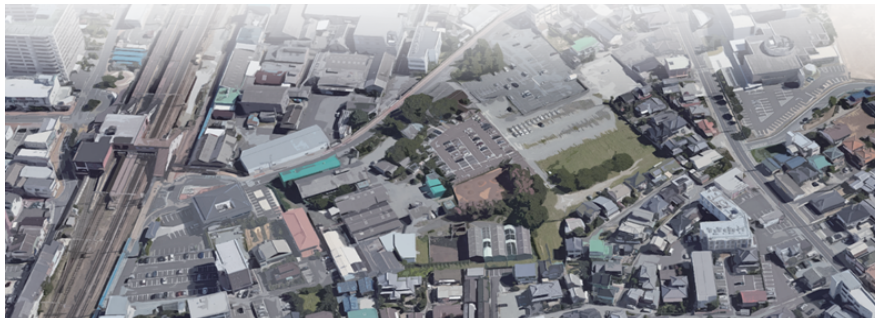
1. ガイドラインの目的

古賀市では、令和元年（2020）度に東口の最大地権者であるニビシ醤油株式会社とまちづくりの検討に関する協力協定を締結し、本格的に東口の整備について取組を進めていくこととなりました。

これまでに、まちづくりコンセプトやまちづくりの整備指針などを示した「JR古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画」や、都市基盤の整備方針について具体的な整備内容を示した「JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画」を策定してきました。

まちづくりのコンセプトである「歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり」を実現していくためには、行政や市民、開発事業者などがまちの将来像としての空間イメージや空間形成の方針を共有し、協力・連携していく必要があります。

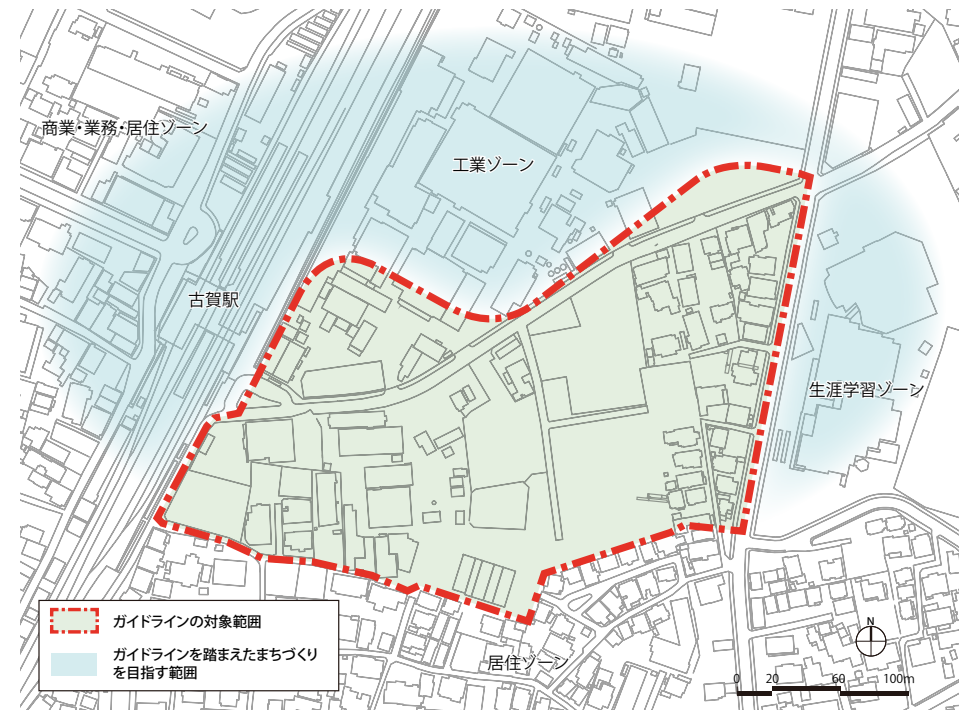
JR古賀駅東口周辺地区まちづくりガイドライン（以下「まちづくりガイドライン」という。）は、各関係者の基本的な合意事項として、まちの将来像や空間形成の方針、具体的な空間デザインのあり方、それらを実現するためのルールを示すことを目的とします。なお、まちづくりガイドラインは、今後具体的なプロジェクトを進める際に各関係者が参照するものであると同時に、市民がまちづくりを考えるきっかけとなる指針となることを目指します。



2. ガイドラインの対象範囲

ガイドラインの対象範囲は、JR古賀駅東口周辺地区整備想定エリアのうち、開発予定区域及び既存宅地を含む約5.9haの範囲です。対象範囲については、ガイドラインに基づいて適切な開発誘導を図っていくとともに、ガイドラインに示した古賀市が目指す空間イメージを実現するための一定のルールを設定していきます。

また、対象範囲に隣接する区域の開発においても、ガイドラインを踏まえたまちづくりを目指していきます。



01 上位計画における位置づけ

1. JR古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画

■まちづくりコンセプト

JR古賀駅東口周辺のまちづくりは、現状のまちの特性を活かしながら改善を図ることはもちろんのこと、『～これからの100年、市民が誇れるまちへ～』の実現に向けて、「賑わい」、「子育て世代の居住」、「回遊性」、「魅力の発信」、「印象的な空間」の整備や施策など、未来に向けた新しいまちを創造していく役割を担うことが求められます。これらを踏まえて、まちづくりのコンセプトを示し、実現に向けて取組を進めます。

まちづくりコンセプト

歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり

■まちづくりの整備指針

指針1 にぎわいを創出する多様な機能集積

住宅・商業・観光・医療・教育・文化・交流・就労など多様な機能が集積し、多様性とにぎわいの創出、魅力の発信に取り組みます。

指針2 公共交通機関との連携と回遊性の高い歩行者ネットワークの創出

将来の都市機能に合わせた交通網の見直しと歩いて回遊できる居心地の良い空間を創出します。

指針3 既存工場などの立地特性を活かした街並みの形成

隣接しているものづくり工場や公共施設との調和を図り、緑化などの景観に配慮しつつ、特徴的な街並みの形成を目指します。また、古賀市の玄関口に相応しい駅前の魅力向上に取り組みます。

指針4 脱炭素社会の実現に向けたまちづくり

令和3年11月30日、古賀市は、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーや高効率な環境技術の導入を積極的に図ります。

指針5 安全・安心に暮らせる都市基盤の構築

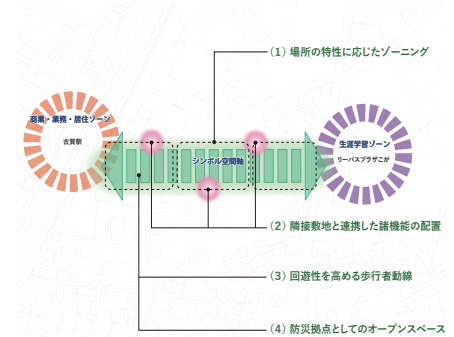
近年の災害に対応した防災機能の強化と女性や子育て世代が安心して暮らせる質の高い都市基盤を構築していきます。また、本格的なデジタル社会に向けた、新しい技術やサービスとの連携に取り組みます。

2. JR古賀駅東口周辺地区整備基本計画

■基盤整備の方針

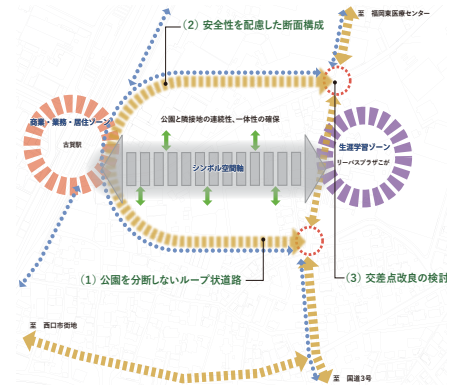
公園によるウォーカブルな都市軸の形成

- ・「古賀駅」から「生涯学習ゾーン」までをシンボル空間軸とし、公園によってつなげます。配置にあたっては、既存クスノキの保全とその活用策を検討します。
- ・都市軸となる公園における賑わいや居場所を配置したウォーカブルな空間を創出します。
- ・安心・安全に配慮した公園とします。



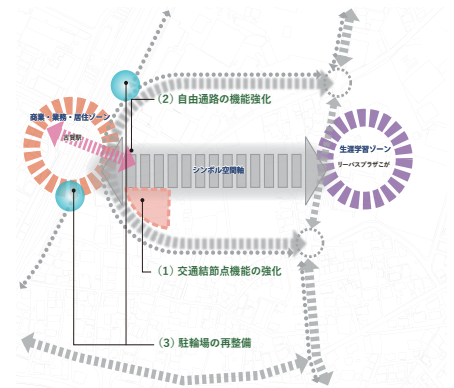
公園による都市軸を生かす交通ネットワークの形成

- ・道路等による公園の分断をできるだけ減らし、自動車動線と交錯しないよう公園の連続性を保ちます。
- ・公園と宅地の間に自動車交通網を設けず、公園と宅地の一体的な空間形成につなげます。
- ・各方面からのアクセスに配慮したネットワークとします。
- ・段階的な整備プロセスにおいても円滑な交通網を形成します。
- ・通勤通学時の歩行者交通の集中に対応するために、古賀郵便局前交差点の改良を検討します。



交通結節機能をもつ駅前広場や自由通路の形成

- ・駅前広場の混雑を避けるためバスやタクシー、一般車等の乗換えなどの利便性の向上を図ります。
- ・エレベーターやエスカレーター等のバリアフリーで使いやすい交通結節点を形成します。
- ・西口と東口の連続性を高め、古賀の玄関口として誇れる駅前景観の形成に資する駅前広場や自由通路等とします。
- ・駐輪場やトイレ等の適切な配置による交通結節機能の強化を図ります。



02 まちの特性

1. JR 古賀駅周辺の成り立ち

古賀駅は、1890年に博多駅～赤間駅間に九州鉄道が開通したことに伴い開業しました。1919年には、東口に日本調味料醸造株式会社（現ニビシ醤油株式会社）が創業し、昭和初期には大規模工場が相次いで進出してきました。

同時期に西口では商店街が形成されます。戦後には宅地化が進み、1970年代には現在の市街地構造とほぼ同一の状態となっています。現在の東口周辺には、市役所その他、リーパズプラザこが（中央公民館、交流館、図書館・歴史資料館）などの公共施設が集積しています。



日本調味料醸造株式会社



駅前通り商店街（昭和40年代）



上：国土地理院地形図（1926年）、下：国土地理院標準地図（2022年）

2. JR 古賀駅周辺の立地特性

JR 古賀駅周辺は、「まち」のほぼ中心に位置しています。「まち」全体で見るとJR鹿児島本線、国道3号、国道495号が通り、古賀ICにも近いことから、広域的な交通利便性にも恵まれています。

商業施設や病院、公共施設、学校などの主要な都市機能は、駅から約1km圏内に立地していますが、駅周辺からまばらに離れて点在している状況です。西口と東口では異なる市街地を形成しています。西口では国道495号沿道を中心に商業・業務機能の集積のほか、駅直近という立地から10階前後のマンションが見られるのに対し、東口は大規模工場と市役所、リーパズプラザこがなどの公共施設が立地し、住宅は戸建て住宅がメインとなっています。



古賀駅周辺の街並み

3. JR 古賀駅東口周辺の現状

【土地利用】

古賀駅開業後から工場立地が進められてきた歴史的背景があり、現在でも大部分は工場用地になっています。そのため、計画的かつ面的な市街地整備も行われておらず、駐車場などの低未利用地も多くあります。

西口と比べ駅直近ながら商業や生活サービスなどの機能は集積していませんが、生涯学習ゾーン（中央公民館、交流館、図書館・歴史資料館）や市役所などの公共公益施設が集積しています。

【交通アクセス】

東口の駅前広場には路線バスとコミュニティバスが乗り入れています。待機スペースが不十分なため、朝夕などピーク時には自家用車による混雑が発生しています。

東口から近隣市町村や主要都市を結ぶ広域幹線道路として国道3号（香椎バイパス）があります。国道3号（香椎バイパス）は旧国道3号（現国道495号）の慢性的渋滞緩和を図るバイパスとして1970年代から段階的に整備されましたが、整備に先立ち東口周辺の宅地化が進行していたことから、国道3号（香椎バイパス）は古賀駅から約1km東側に離れた場所に立地しています。

【歩行者ネットワーク】

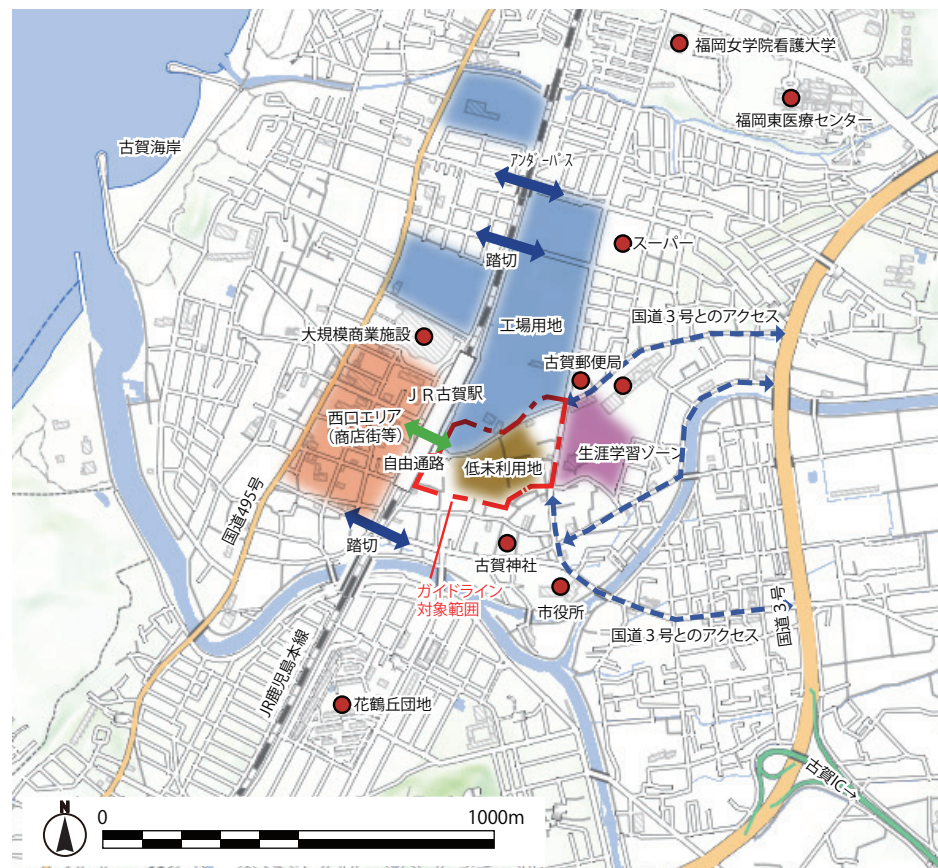
西口と東口の市街地は線路で分断されており、車で行き来する場合には南北の踏切まで大きく迂回する必要があります。しかし、歩行者は古賀駅の自由通路により往来することが可能であり、一日に約千人が東西の通り抜けに利用しています。

生涯学習ゾーンは、駅から東方面に直線距離で約300mの場所に位置

していますが、歩行者が駅から生涯学習ゾーン入口へ向かうためには、古賀郵便局前の道路を利用する必要があるため、徒歩の場合時間がかかります。また、南側の住宅地内の道路は狭隘な道路や行き止まりも多く、地区全体の回遊性は高くありません。

【地域資源】

創業100年を超える工場や古賀神社などの歴史的資源のほか、工場前にある大クスノキ、大根川などの自然的資源、生涯学習ゾーンや市役所などの都市的資源が立地しています。



03 まちづくりの整備指針に基づく基本的考え方

まちづくりコンセプトを実現するためのまちづくりの整備指針に基づく基本的考え方を示します。
各整備指針の具体的な内容については次ページ以降で示していきます。

機能

賑わいを創出する多様な機能集積

西口周辺、東口周辺、生涯学習ゾーンの3つの地区で賑わいの好循環を創出していくために、周辺との機能分担と相互連携に配慮した機能集積を進めます。



動線・ネットワーク

公共交通機関との連携と回遊性の高い歩行者ネットワークの創出

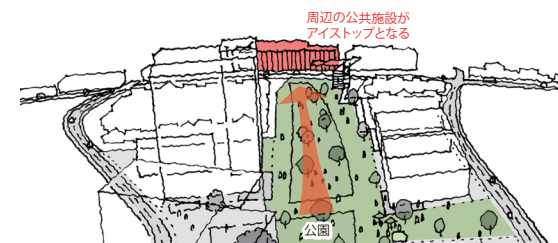
まちづくりのコンセプトである「歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり」を実現するために、安全で効率的な交通ネットワークの形成を目指します。



景観

既存工場などの立地特性を活かした街並みの形成

隣接する周辺の土地利用との連続性を意識し、調和した街並み形成を図るとともに、歩行者の目線を重視し、古賀市の新たな玄関口にふさわしい街並みの形成を目指します。



環境

脱炭素社会の実現に向けたまちづくり

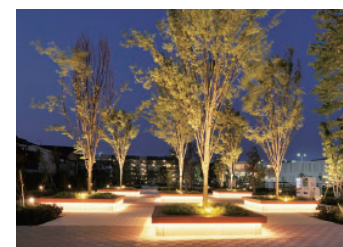
JR 鹿児島本線が通る鉄道沿線の立地を活かしつつ、民間投資を促進させながら、都市・交通の低炭素化・エネルギー利用の合理化を目指します。



防災・防犯

安全・安心に暮らせる都市基盤の構築

防災基盤の整備に取り組むとともに、昼夜を問わず、人の目が行き届きやすい環境を整えるなど防災面でも防犯面でも安全・安心に暮らせる都市基盤の構築を目指します。



1. 機能 賑わいを創出する多様な機能集積

●まちなか全体を巻き込んだにぎわいの好循環

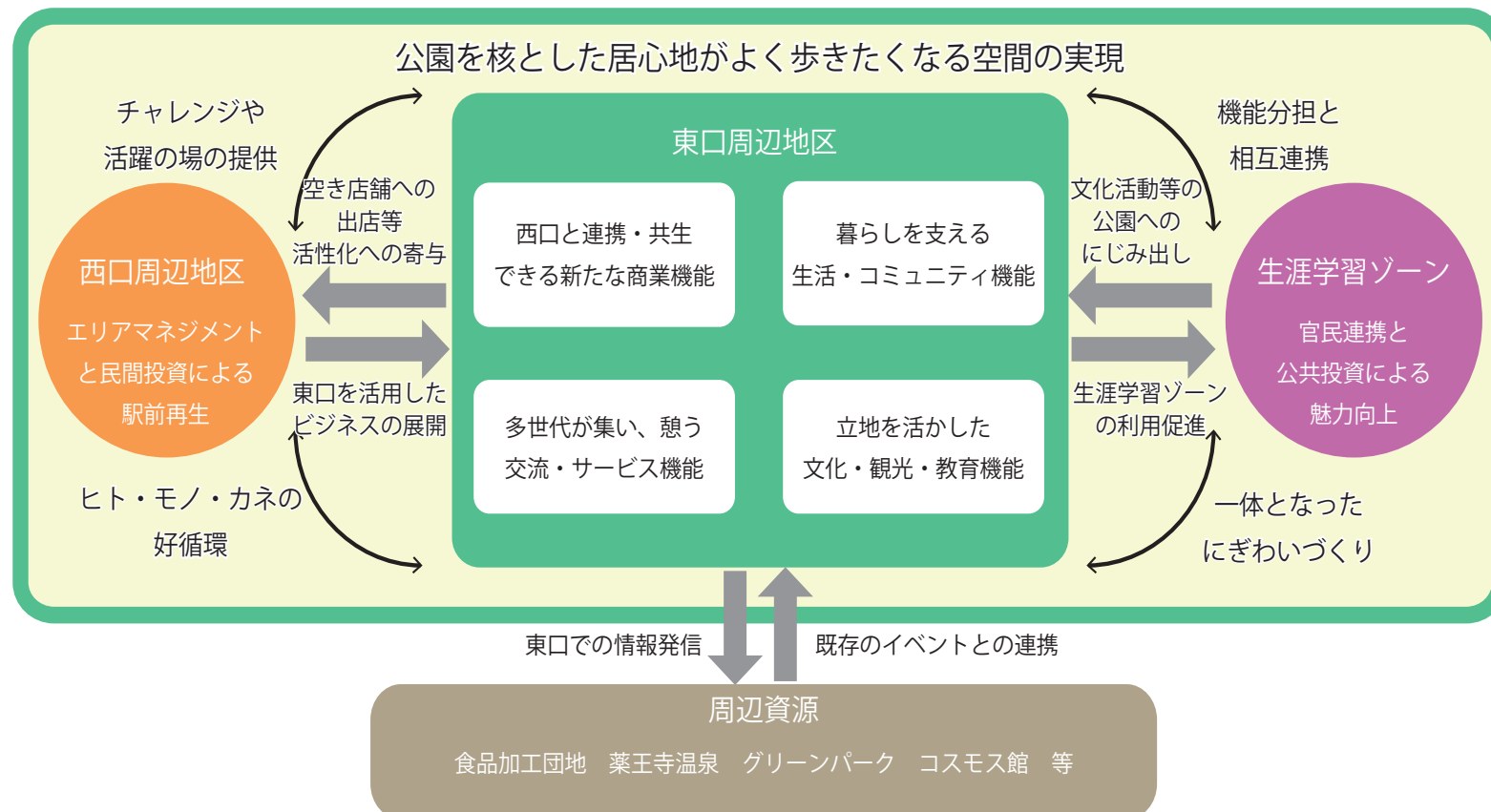
西口周辺、東口周辺、生涯学習ゾーンの3つの地区の役割分担を明確化し、個々の地区の活動や人材、機能が隣接する地区と有機的につながり、賑わいの好循環を創出していくために、周辺との機能分担と相互連携に配慮した機能集積を進めます。

また、まちなかの賑わいが市内全域に波及するように、東口での情報発信やイベント開催など、市内の周辺資源との連携を図ります。

●公園を核とした居心地がよく歩きたくなる空間の実現

東口周辺では公園を核とした居心地がよく歩きたくなる空間を実現するために、多様なライフステージに対応した商業機能、交流・サービス機能、生活・コミュニティ機能、文化・観光・教育機能を公園内を中心に整備・誘導します。

あわせて、隣接する地区の活動の受け皿となる空間づくりを意識します。



【西口と連携・共生できる新たな商業機能】

- ・周辺の住環境への影響が大きな大型商業施設ではなく、周辺住民の生活の質の向上に寄与し、公園と隣接することで魅力が高まる商業機能を誘導します。
- ・地域の若者の新規参入やチャレンジを促進するような小区画の店舗や公園内の仮設店舗等を積極的に誘導します。
- ・キッチンカーや仮設店舗など、変化が感じられたり、変化に対応できる商業機能を誘導します。

<機能の具体例>

ライフスタイル提案型店舗
ミニスーパー、コンビニ
カフェ、ベーカリー
チャレンジショップ
キッチンカーなど



【暮らしを支える生活・コミュニティ機能】

- ・主に子育て世代をターゲットに自分らしい暮らし方を実現してもらうため、生活をサポートする機能を誘導します。
- ・公園の緑や賑わいを感じることができる住宅機能を誘導します。
- ・子どもたちが安全に遊ぶことができる空間や子どもたちをゆるやかに見守ることができる空間を整備・誘導します。
- ・コワーキングスペースなどリモートワーク等の多様な働き方にも対応した空間を誘導します。

<機能の具体例>

子育て世代向けの多様な住居
遊具広場
ワークスペース
スポーツジム
リラクゼーションなど



【多世代が集い、憩う 交流・サービス機能】

- ・多様な世代の人々が来訪するきっかけとなる施設や、人々の交流を促す機能、日常的に憩うことができる機能を誘導します。
- ・まつり古賀や土曜夜市などの既存のイベントや、フリーマーケットなど幅広い用途で活用できる広場空間や、誰もが思い思いに過ごせる芝生広場や休憩スペースを整備・誘導します。
- ・多世代が安心して健康に過ごせるように子育て支援施設や医療福祉施設を誘導します。

<機能の具体例>

公園
イベント広場
芝生広場
保育園、こども園
病院、クリニックなど



【立地を活かした文化・観光・教育機能】

- ・鉄道駅や生涯学習ゾーンに隣接した立地を活かし、来街者や地域の人々が古賀市の文化や観光情報に触れることができる機能を誘導します。
- ・生涯学習ゾーンと連携し、市民の様々な活動を屋外でも展開・発表できる場を整備します。
- ・市内の周辺資源に関する情報発信やサインについては多言語化対応を推進します。

<機能の具体例>

観光案内所
アンテナショップ
カルチャースクール
ステージ
ギャラリーなど



古賀市におけるまちづくりについて

古賀市では、本市の強みを引き出し、まち全体の魅力を高める取組として、JR古賀駅東口周辺地区の整備だけでなく、様々なプロジェクトを推進しています。以下、その概要をご紹介します。

■ JR古賀駅西口活性化プロジェクト

西口エリアでは、地域の方々の参画を促すとともに、取り組む方向を示した西口エリア活性化ビジョンを策定しています。西口エリアの商店主・事業種の方々を中心に構成される実行組織により、まちの賑わい、豊かな暮らしの向上に資する様々なプロジェクトが展開しています。



ダンス教室をリノベーションしたシェアスタジオ



高校生による空き店舗活用

■生涯学習ゾーン整備プロジェクト

東口エリアにあるリーパスプラザ・研修棟・サンフレアこが・市立球技場などの一帯を「生涯学習ゾーン」と位置づけて施設整備事業を進めています。公共施設の更新、維持管理及び運営については、民間活力を積極的に取り入れていきます。



生涯学習ゾーンの全景

■薬王寺温泉・インキュベーション促進プロジェクト

古賀市東部にある薬王寺温泉の旅館「快生館」をインキュベーション（新規創業・新規起業の支援）施設としてリノベーションしました。テレワークの浸透など働き方に対する人々の考え方の変化を捉え、シェ



浴場に隣接して入居者同士の交流を促す共有スペース

アオフィス、コワーキングスペース等として活用し、市への移住・定住・滞在を促す新たな取組を展開します。

■観光・物産・情報発信の拠点形成プロジェクト

コスモス館も含めた古賀グリーンパークとその周辺について、観光の視点も含めた開発の可能性を検討し、官民の相乗効果で、農業・商業・工業それぞれの特性を一体的に引き出す拠点形成を目指しています。また、「食」をテーマとしたお祭りに、古賀市鹿部の福岡食品加工団地周辺で開催される「古賀モノづくり博食の祭典」があります。工場団地内の有名企業などが出店、お得な価格の食品やコラボ商品を販売しており人気イベントとなっています。



農産物直売所「コスモス館」



古賀モノづくり博食の祭典

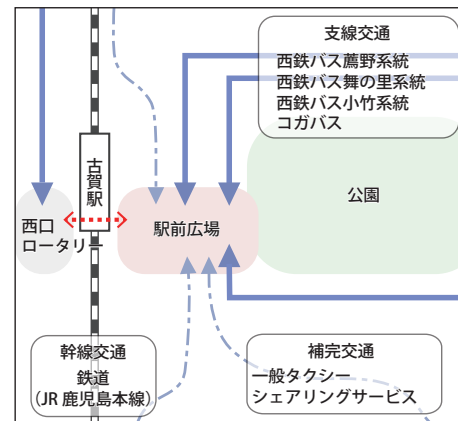
2. 動線・ネットワーク 公共交通機関との連携と回遊性の高い歩行者ネットワークの創出

●歩車分離を意識した交通ネットワークの形成

まちづくりのコンセプトである「歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良いまちづくり」を実現するために、安全で効率的な交通ネットワークの形成を目指します。

【公共交通ネットワーク】

- 公共交通の利用促進、利便性向上を目指し、駅前広場の整備に合わせて、鉄道と、西鉄バスやコガバス等が円滑に乗り換えられるような環境整備に取り組みます。
- 駅前広場は、古賀駅に近接した位置に配置し、自家用車、バス、タクシーの転回スペースや乗降バス、タクシープール等を効率的に配置できる規模とします。
- 将来的に現在西口に停車している薦野系統の路線バスについて東口へ誘導していきます。



駅前広場を起点とした公共交通ネットワーク

【歩行者ネットワーク】

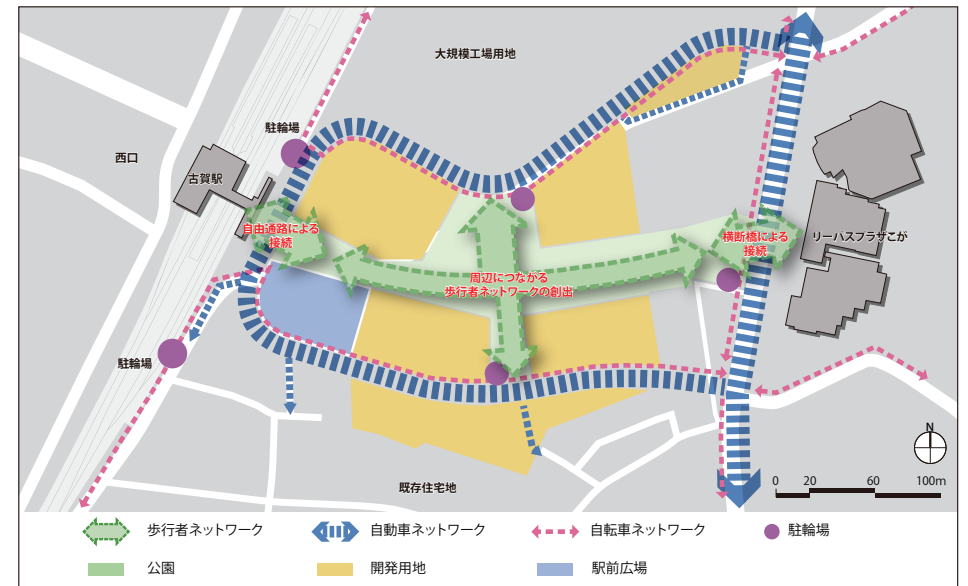
- 自由通路による駅の東西のアクセスの充実を図るとともに、駅から生涯学習ゾーンまでの区間を歩行者が安全かつ快適に回遊できる歩行者空間を整備します。
- 自由通路については、歩行者が西口から東口、生涯学習ゾーンまでシームレスに移動できるよう延長し、公園に直接アクセスできるようにします。
- 工場に面する北面及び既存住宅地に面する南面に対して公園の間口を広く計画することで、南北方向からもアクセスしやすい公園として整備します。

【自転車ネットワーク】

- 古賀駅を利用する方のための駐輪場は、古賀駅に近接して南北に配置することで駅前空間への自転車の流入を抑制します。
- 公園を利用する方のための駐輪場は、各方面からの来訪に配慮し、公園の出入口に分散して配置することで、自転車利用者と歩行者との動線の交錯を防ぎます。

【自動車ネットワーク】

- 地区内に通過交通が発生しないような道路形状とします。また、公園と道路が面する箇所を少なくすることで安全な公園空間を確保します。
- 開発用地内における駐車場の適正化を図ります。



歩行者・自転車・自動車のネットワーク

3. 景観 既存工場などの立地特性を活かした街並みの形成

●周辺の土地利用等と調和した街並みの形成

隣接する周辺の土地利用との連続性を意識し、調和した街並み形成を図るとともに、歩行者の目線を重視し、古賀市の新たな玄関口にふさわしい街並みの形成を目指します。

【街並み形成に資する街区整備】

- 公園に面する開発用地である北側街区は、駅直近という立地を活かし、拠点性が感じられるような高層建物による街並みの形成を図ります。
- 南側街区は開発による新たな建物と既存の住宅地の新旧が対立しないように高さを抑えた街並みの形成を図るとともに、公園や既存住宅への日照条件に配慮した建物高さを設定します。



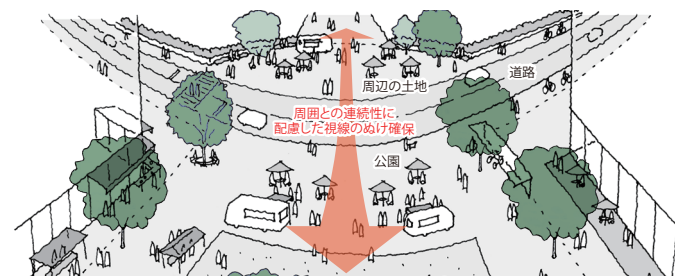
街並み断面イメージ(上) 平面イメージ(下)

【緑の連続性の確保】

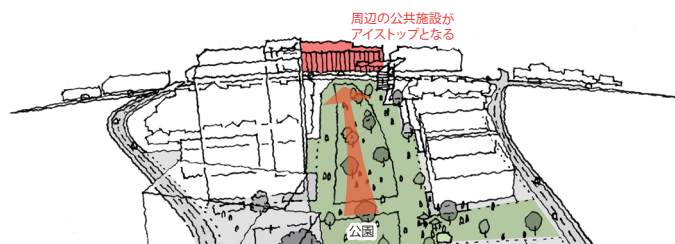
- 街路樹や敷地際の植栽、壁面緑化により、地区全体で緑が連続しているように感じられる街並み形成を図ります。

【眺望・視線の抜けの確保】

- 公園内外に続く視線の抜けを確保し、奥行きのある景観をつくるため建物や植栽配置における周囲との関係に配慮します。
- アイストップとなるような周囲の建物に対する公園からの見え方に配慮します。
- 歩行者からの目線とデッキや建物からの立体的な視線のつながりにも配慮します。



奥行きのある景観のイメージ



公園からの周囲の建物の見え方のイメージ

4. 環境 脱炭素社会の実現に向けたまちづくり

●官民連携による低炭素化の推進

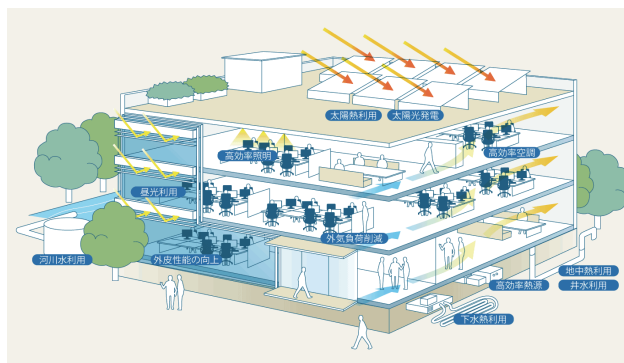
JR 鹿児島本線が通る鉄道沿線の立地を活かしつつ、民間投資を促進させながら、都市・交通の低炭素化・エネルギー利用の合理化を目指します。

【都市機能の集約化】

- ・にぎわいを創出する多様な機能を誘導するために、脱炭素社会の実現に向けたまちづくりへの貢献にも配慮し、環境に配慮した公共施設の整備や民間施設等の立地促進に取り組みます。

【建築物の脱炭素化】

- ・ゼロカーボンシティ実現に向けた取組として、「新築される建築物については ZEB 基準の水準」の確保を目指すとし、公共建築物の将来的な更新、施設管理における省エネや再エネの導入について積極的に取り組みます。
- ・民間開発が予定されている区画での整備や駅周辺地区の開発にあたり、民間等の先導的な低炭素建築物・創エネ・省エネ住宅等の立地の促進を図ります。



ZEB 実現に向けた建築計画の工夫

【緑の保全・緑化の促進】

- ・二酸化炭素の排出量削減やヒートアイランド対策等に配慮し、既存樹等の保全や緑化の促進に取り組みます。



大クスノキの保全



立体的な緑化のイメージ

【エネルギーの効率的利用の促進】

- ・地域エネルギーを賢く使うスマートコミュニティの展開を見据えて、太陽光発電や蓄電池等、効率的な新エネルギー・省エネルギー機器等の設置に取り組みます。

【環境教育・環境保全活動の推進】

- ・ハード整備以外にも、公園を活用した参加型体験型の環境教育・環境保全活動の促進など、ゼロカーボンアクションに関する環境教育・環境保全活動の充実に取り組みます。

5. 防災・防犯 安全・安心に暮らせる都市基盤の構築

●災害に強い防災基盤等の整備

不測の大規模な自然災害（風水害、地震等）や人為的な火災等を想定し、必要な防災基盤等の整備に取り組みます。その整備にあたっては、平時の防災訓練等への活用には十分に配慮するだけでなく、魅力ある都市空間として維持できるような創意工夫に努めます。



イベントスペースとして活用される緊急車両用駐車スペース

【一時避難場所となる公園整備】

地震、面的な火災やマンション火災等に際して、地域住民の身近な一時避難場所として公園が活用できるように、透水性舗装救護用のテント等が設置しやすいオープンスペースを確保するとともに、子育て世代や高齢者等も利用しやすいトイレ、かまどベンチ等を設置します。また、公園内は透水性舗装を用いる等、大根川からの浸水被害軽減に配慮した計画とします。

【救援物資集積拠点となる公園整備】

市内で比較的大規模な風水害、地震、土砂災害等が発生した場合、救護物資等を運ぶ拠点として公園が活用しやすいように、防災倉庫の設置をするとともに、物資や避難民等を運ぶ緊急車両等の利用も想定したオープンスペースの確保に取り組みます。

【防災まちづくりを啓発する消防設備等の整備】

平時における防災訓練に活用しやすく、防災まちづくりの啓発にも資する消防設備等の設置に取り組みます。

●防犯まちづくりに資する環境整備

昼夜を問わず、人の目が行き届きやすい環境を整えます。

【見通しのよい環境づくり】

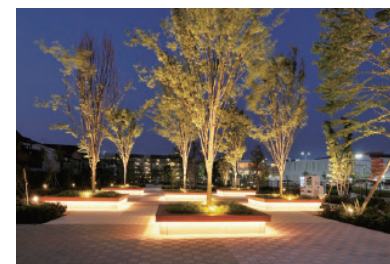
死角が生じるような建築物や工作物の設置、樹木の植栽は行わない等、子どもたちをゆるやかに見守ることができる見通しの良い環境を整えます。



視線を遮らない植栽

【夜間照明の充実】

駅と生涯学習ゾーンを結ぶ公園等を中心として、ポール灯、フットライト、地中埋没型器具等を設置し、夜間景観を演出するだけでなく、暗がり無くし、まちなかの安全・安心を高めます。



防犯にも資する夜間照明

●デジタルを活用した地域の情報発信機能の導入

地域のお知らせや、有事の際の災害情報や避難情報などのほか、市内の必要な情報が見れるようにデジタルサイネージなどを整備します。



デジタルサイネージなどの整備

04 まちの将来像

1. 実現したい風景の基本的な考え方

① 多様な賑わいの集まりが駅とまちをつなぐ

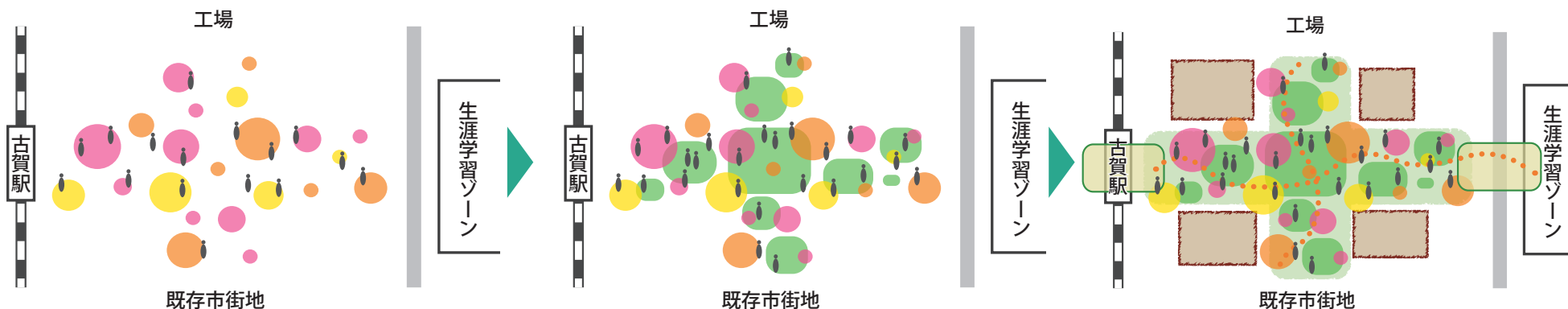
駅と生涯学習ゾーンの間が多様な賑わいの場所や活動の場所が点在し、人々が楽しく行き来しやすい環境をつくることにより、駅とまちがつながります。

② 居心地のよさがつながりを強める

人が一休みしたり憩う場所、居心地のよい場所を重ねることにより、そこに滞在する人が増え、駅とまちのつながりはより強まります。

③ 人を中心としたオープンスペースが賑わいと憩いの舞台をつくる

人々が集い、往来する賑わいと憩いの舞台として、公園やデッキ等のオープンスペースがつながり、それらに顔を向け建物が囲みます。

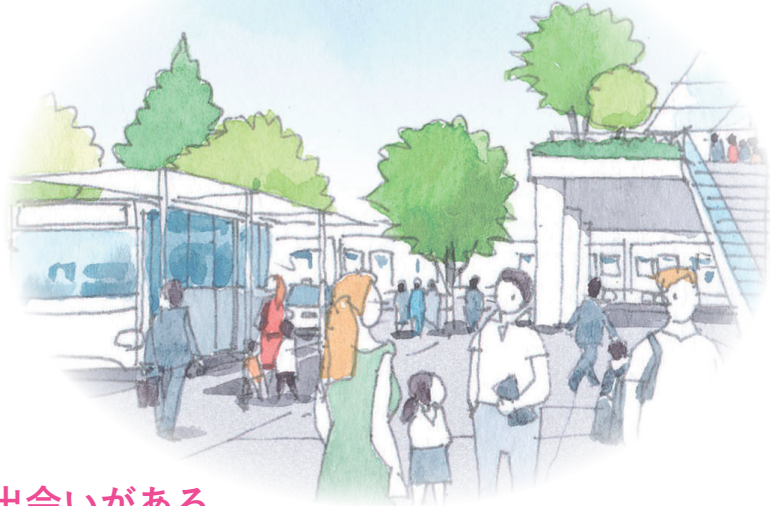


2. 実現したいシーン

駅付近のオープンスペースでは・・・

楽しさを共有できる

西口でダンスを習っている学生。
今日はお祭り、仮設のステージでダンスを披露。
「家族も見に来てくれている！」
いつにも増して、駅前が賑わっている。

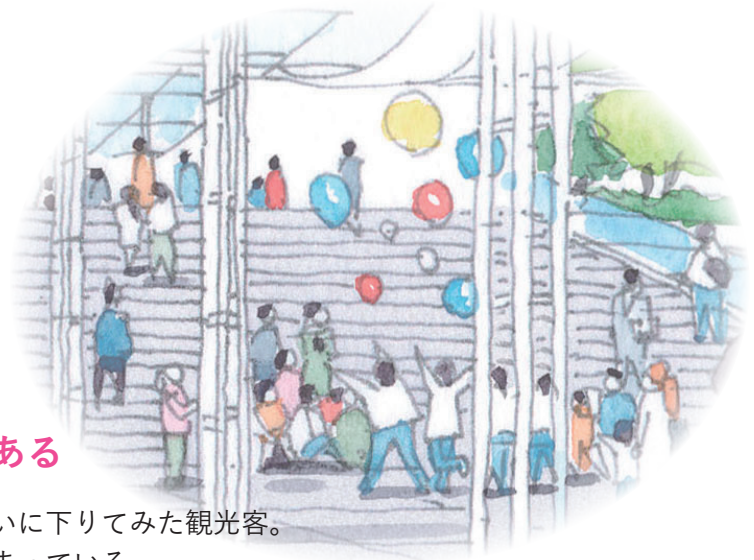


日常の出会いがある

バスで駅に立ち寄ったお母さん。
電車で帰ってくる、お父さんと子どもと待ち合わせ。
みんなで帰宅する前に、公園に面するカフェに
「ちょっと寄り道してみよう。」
駅前では様々な家族が、思い思いに時間をすごしている。

思いがけない感動がある

車窓からの風景を見て、ふいに下りてみた観光客。
駅を降りると多くの人が集まっている。
そのにぎわいに、なんだか楽しくなってきた、
「今度は友達と一緒に、また来よう」と思った。



中央のオープンスペースでは・・・

芝生の広場で安らげる

子育てに忙しいお母さんとお父さん。
子どものイヤイヤ期もはじまって更に大変、、、
今日は、穏やかな天気誘われて広場にやってきた。
芝生の香りと風が心地よい。「子どもの笑顔で癒される〜。」
ふと、同世代の子育て世代が多いことにも気が付いた。



新しい事業にチャレンジできる

地元の食材を使ったスイーツで地域を盛り上げたい。
そんな思いを、公園内の小型店舗でついに叶えた。
何度も通ってくれるファンも増えてきし、
「これから、もっともっと頑張るぞ！」

木陰で休息が得られる

近くで働く会社員。
最近ではリモートワークで自宅作業が続いている。
なんだか運動不足なので、
「仕事の合間に公園を歩いてみよう。」
木陰の風が涼しくて、すれ違う人も心地よさそう。



待ち合わせに立ち寄る

リーパスプラザこがでのコンサートに訪れたシニア世代の夫婦。
今日は小学校の頃からのお友達と待ち合わせ。
観覧客も多く、コンサートは人気がありそうだ。
「期待も高まる！」



本の読み聞かせを楽しむ

図書館に遊びにきた親子。
借りたかった絵本をようやく借りられ、子どもは大喜び。
天気も良いので、「公園で読んで！」とのリクエストに応えることに。
近所のお友達も来ているみたい。



文化的な交流を楽しむ

今日は図書館のイベントが公園で開催中。
公園沿いのカフェも参加するコラボイベントのようだ。
どおりで今日は若い人が多い。

05 空間形成の基本方針

方針1

ヒューマンスケールな賑わいの連なりをつくる

1階部分の設えやまちかどの演出により、ヒューマンスケール¹⁾な賑わいの場の連なりをつくります。また、公園に顔を向けた建物配置や賑わいをつなぐ機能の配置により、公園の回遊性を創出し、まちへと賑わいを波及させます。

方針2

オープンスペースの居心地の良さを高める

誰もが安全・安心して過ごせる公園づくりを進めるとともに、休憩機能や日陰空間の配置により、オープンスペースの居心地の良さを高めます。また、機能の適切な配置により、多様なアクティビティを誘発します。

方針3

オープンスペースを介してまちをつなげる

公園と古賀駅、生涯学習ゾーンをデッキや園内通路等の快適な歩行環境でつなげることで回遊性を高めます。既存の工場などの周辺市街地とも連続性を確保し、公園とまちとのつながりを強化します。

方針4

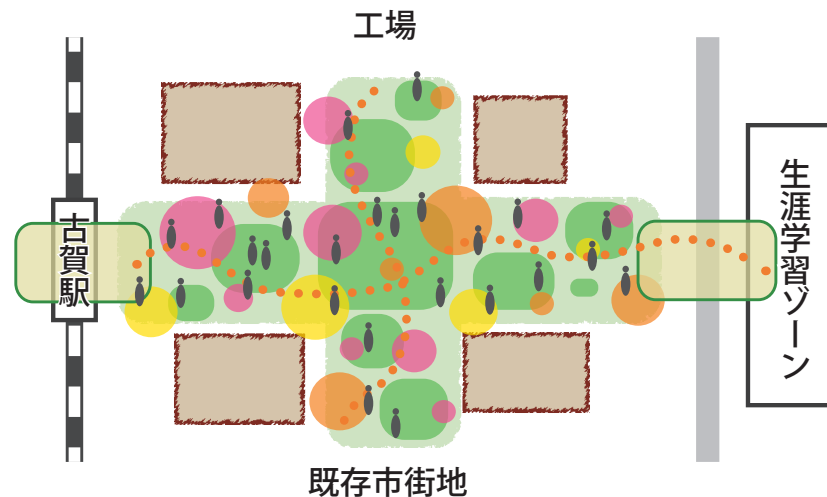
古賀らしい個性ある風景をつくる

公園によるシンボル空間軸を活かして緑の連続性やアイストップ²⁾を意識した個性が感じられる風景づくりを進めます。また、まちの履歴でもある既存樹木の保全や古賀市の四季の移ろいを感じることができる植栽計画など古賀らしいみどりの景観を形成します。

方針5

まち全体の質を高める

植栽等の工夫による公園と周辺の連続性の向上、境界部のしつらえの高質化、ストリートファニチャー³⁾のデザインの工夫により、まち全体の統一感や一体感を高めるとともに、防犯に配慮した照明計画による夜間景観の演出等により、まち全体の質を底上げします。



実現したい風景：賑わいと憩いの舞台となる人を中心としたオープンスペース

【注釈】

1) ヒューマンスケール

人体、人間の感覚、行動に適合した適切な空間の規模やものの大きさ、それを実現するための尺度のこと

2) アイストップ

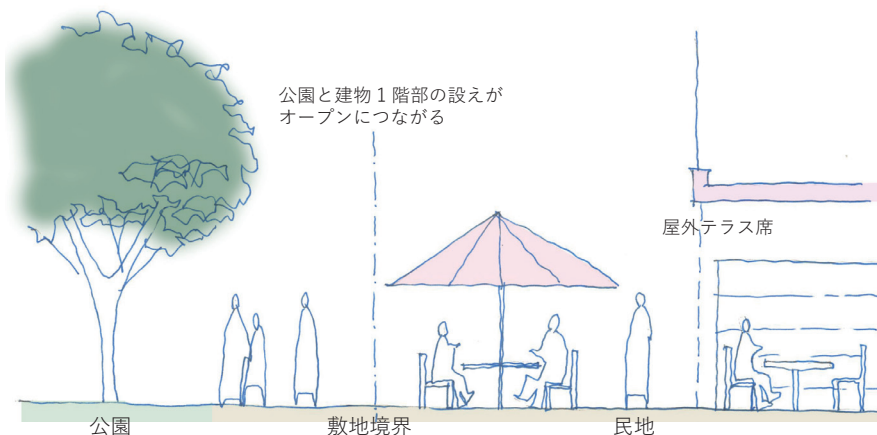
街角や見通しの良い通り景観の正面にある、人の視線を引きつける建築物や樹木などの対象物のこと

3) ストリートファニチャー

室内における家具（ファニチャー）のように街路や公園などの公共空間に存在するベンチやテーブル、看板等の施設のこと

(1) 賑わいの場を生み出す1階づくり

- ・建物低層部には公園の賑わい形成に資する機能を配置し、建物1階部と公園との一体的な利用により複数のヒューマンスケールの賑わいの場を創出します。



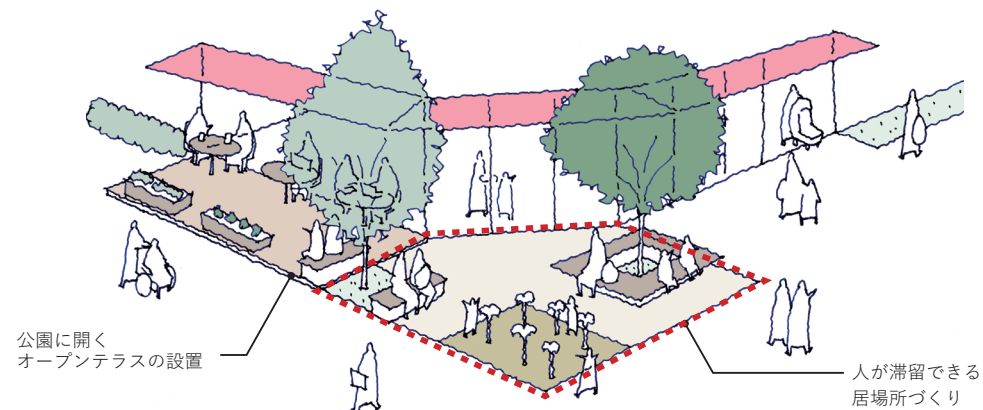
(3) 公園に顔を向けた建物配置

- ・メイン動線となる公園側にエントランスや開口部を設け、公園への人の動線を促すとともに、公園に向けて賑わいを演出します。



(2) まちかどの演出

- ・人々の視線や動線が交差するまちかど部分は建築デザインの工夫や、足元のオープンスペースの設置などデザイン上の工夫を行います。



(4) 賑わいをつなぐ機能の配置

- ・民間活力を積極的に導入し、公園内にも小型の店舗やサービス機能を配置し、賑わいが途切れないよう計画します。

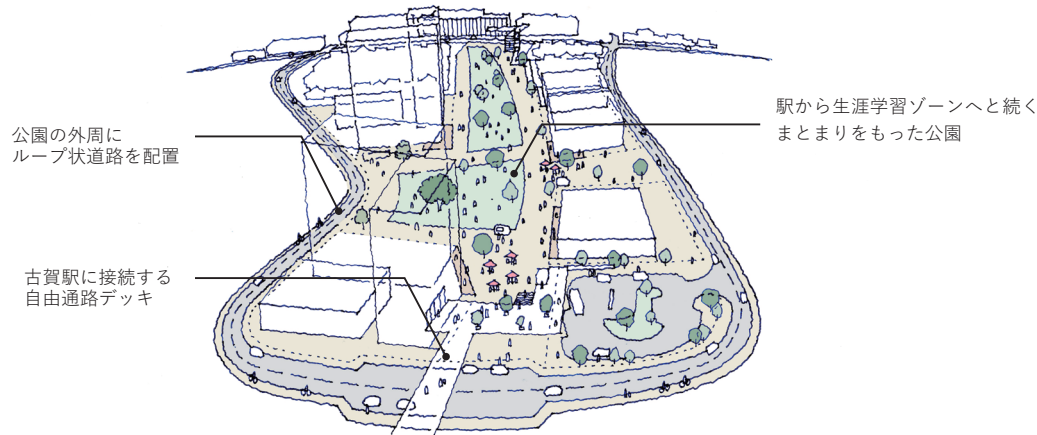


方針 2

オープンスペースの居心地の良さを高める

(1) 安全・安心な公園づくり

- 公園で遊ぶ子どもたちを周りの建物からゆるやかに見守ることができるレイアウトを目指します。また、公園内の動線と自動車の動線を切り分け、多様な世代にとって安全で安心な公園をつくりまします。



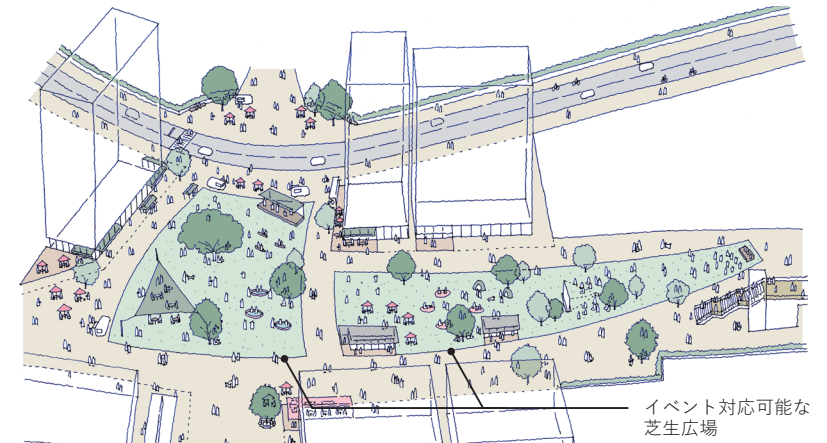
(3) 動線計画に合わせた休憩機能の配置

- 来訪者の居心地の良さを高めるため気軽に休憩できる多様な休憩スペースや清潔で快適なトイレなどを適切に配置します。



(2) アクティビティを誘発する仕掛け

- 隣接する建物との関係性も踏まえ、芝生広場や遊具等を適切に配置し、多様なアクティビティを誘発します。また、イベントにも対応した広場や電気、給排水等の設備を充実させます。



(4) 快適な日陰空間の創出

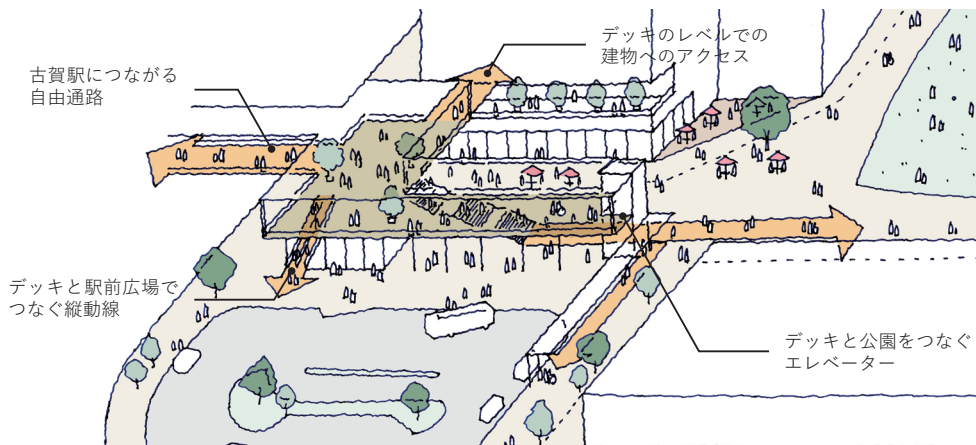
- 歩行者動線上は植栽や庇^{ひさし}、パーゴラ等の工夫により、連続した日陰空間をつくり、夏でも快適な空間を創出します。



方針3 駅とまちをオープンスペースでつなげる

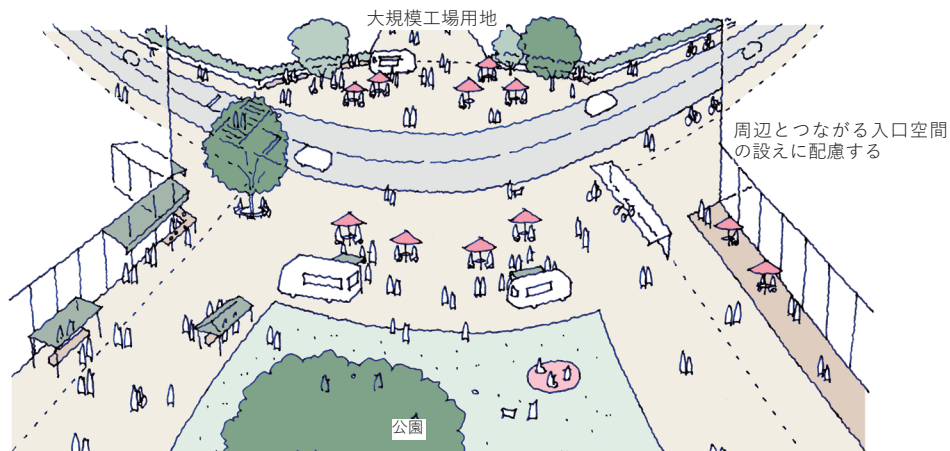
(1) 駅と公園をつなぐデッキ空間の整備

- ・JR 古賀駅のコンコースと東口周辺地区を直接結ぶデッキ空間は、単なる歩行者通路とせず、植栽やファニチャー類の工夫、隣接する建物との連携により、歩行空間と滞留空間が混在した空間とします。



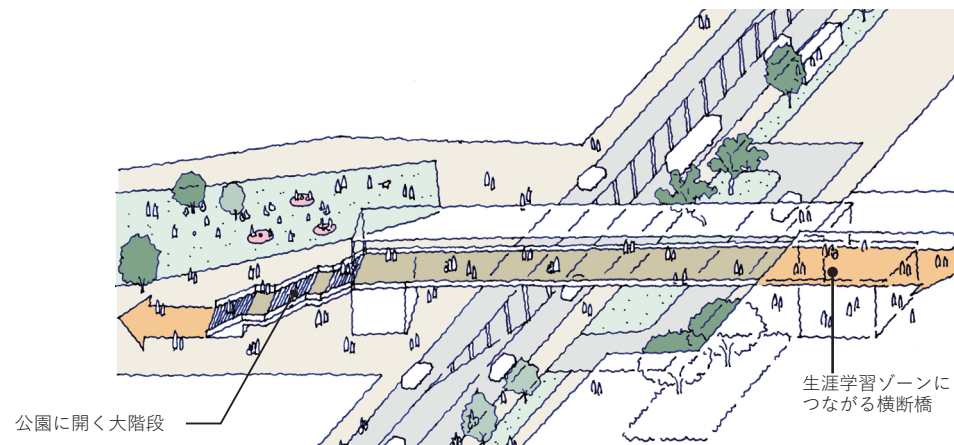
(3) 工場・市街地とのつながりの創出

- ・公園は駅や生涯学習ゾーンだけでなく、北側にあるニビシ醤油の工場群や、南側の市街地とのつながりを大切にし、周辺のまちとつながる公園空間づくりを目指します。



(2) 公園と生涯学習ゾーンの連続性の確保

- ・公園から花見栗原線を横断せず、直接生涯学習ゾーンにアクセスできる歩行者動線を整備するとともに、生涯学習ゾーンのもつ文化的機能の公園へのにじみ出しを促進します。



(4) オープンスペース内の歩行者動線

- ・駅とまちをつなぐ東西南北の歩行者動線は、緩やかなカーブや幅員の変化によりリズム感のある通路にするとともに、雨天時の移動のしやすさにも配慮した設えとします。

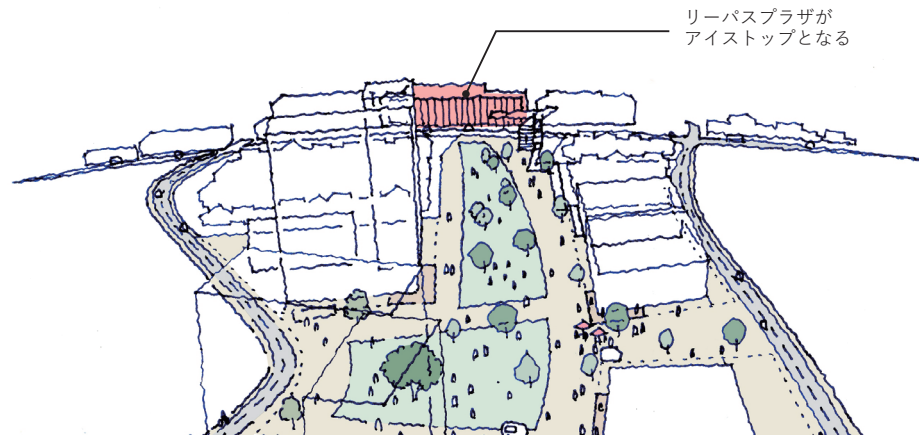


方針4

古賀らしい個性ある風景をつくる

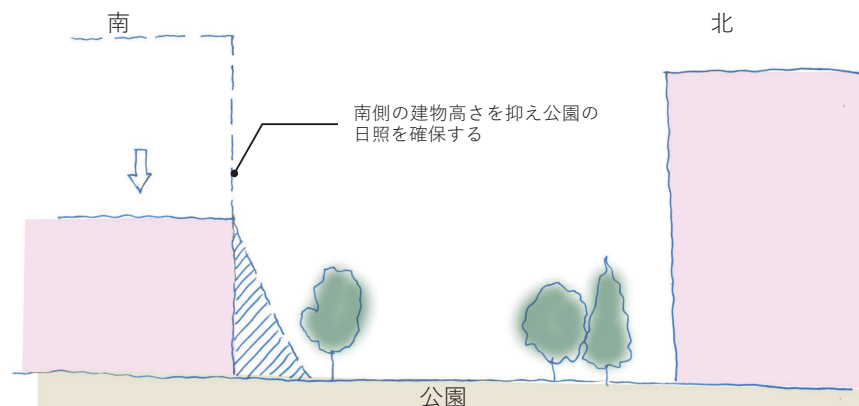
(1) アイストップを意識した景観形成

- ・ 植栽の配置や建物の位置の工夫により、古賀駅を訪れた人がリーパスプラザをアイストップとしてリーパスプラザまでの緑のつながりや、背景となる山並みを一体的に感じられる景観形成を図ります。



(3) 周辺環境に配慮した建築ボリューム

- ・ 公園への日照確保や隣接する住宅への圧迫感の軽減などに配慮した建築ボリュームとします。



(2) シンボルツリーの保全

- ・ 公園予定地にあるクスノキ等のシンボルツリーを保全し、公園内に取り込むことで、まちの履歴を尊重するとともに、古賀らしいみどりの景観を形成します。



(4) 四季と潤いを感じることができる公園

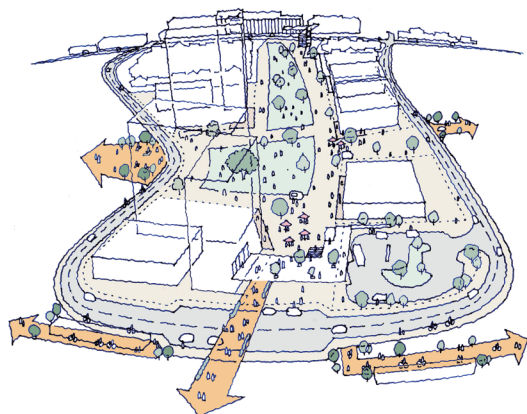
- ・ 公園の植栽には四季折々に花や緑のある高木、中低木、地被類を配置し、古賀の四季の移ろいを感じることができる植栽計画とします。



方針5 まち全体の質を高める

(1) 公園と周辺の連続性を高める工夫

- ・公園の出入口は屋外設置物の配置の工夫などにより、エントランスとしての空間の演出を行います。
- ・公園の出入口に面する周辺敷地にもオープンスペースや植栽を設けるなどの工夫により、視覚的に公園がにじみ出すような設えを誘導します。



(3) 夜間景観を演出する照明計画

- ・生活者や来訪者が夜間でも安心して活動できる光環境を確保します。
- ・特に公園や駅前広場、デッキ空間においては夜も憩いの場となるような落ち着いた夜間景観を創出します。
- ・シンボルツリーなどのライトアップを行い、夜間の演出を行います。



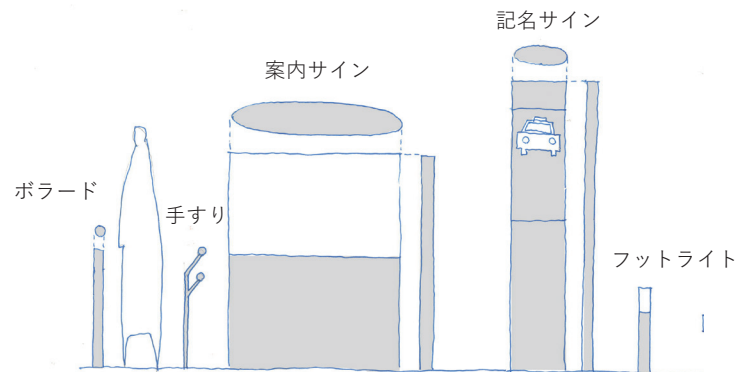
(2) 境界部のしつらえの高質化

- ・公有地と民有地の境界は壁面位置のセットバックや舗装のデザインを統一することで一体的でまとまりのある景観を創出します。
- ・防犯上や目隠しとして柵や塀を設置する場合は、可能な限り植栽や景観に配慮したフェンス等を使用します。



(4) 屋外設置物の高質化

- ・ベンチ、街灯、ポラード、プランターなどの屋外設置物はデザイン、色彩など統一感を持たせ、トータルデザインとすることを基本とします。
- ・環境設備や防災備品を導入する際にも、デザインに配慮します。



【空間形成の基本的な考え方を踏まえた将来イメージ】

